

八

将

次第

月も南乃海りりやぐバの

うを飛む 兄ハ方らわ

たる借よりおとさ四國を

いん程よはな思ひさ西國

乃麻とんさい 表露り義立

波乃奥は船づく入目此雲も影

うひささあこの定と遊く程小

つるく成ト一ト舟ト宿トそトハト將ト
乃ト浦トよト美ト小ト舟トわトくト魚ト人ト程トはト
是トハト磯ト波ト國トハト島トのト浦トよト美ト了トいト
月トのト苦ト了ト人トをトぞトがト成ト極ト原トよト
さト奇ト一ト夜トをトめトきトけトめトとト思トひトいト
面ト白トやト月ト海トとトはト浮トきトつト冬ト波ト濤ト
夜ト火トよト似トくトわト 漁ト人ト西ト原トにト

ろトふトろト宿トひト ありト磯トのト水トをト
汲トつト也ト竹トをトたトくトもトぞトよト氣トきトそト
篝ト火トのト影トほトおトろトくトろトすト成トもト浪ト
いトこトさトらトよト 月ト乃ト出ト極トのト奥トはト浪ト
霞ト乃ト小ト舟トごトろト神トさトきト 海ト生トのト
呼ト聲トぞトもトちトろト 一ト葉ト菊ト里ト乃ト
舟トのトさトだトとト一ト帆ト乃ト風トよトまトりトいト

是乃の極屋乃うもへ案内中の
旅より綾屋より一徳國一見の
傍より一燕のやと我は
らん 徳由待らん 其より一主小
中は海より一徳國一見此
は信の一本乃前と信は 一徳國一見此
程乃信より一徳國一見此

信より一徳國一見此
一徳國一見此
あまわよえく海より一徳國一見此
叶ふまきと信は 一徳國一見此
みる海より一徳國一見此
徳は是ハ其方乃も其より一徳國一見此
は満其より一見の子より一徳國一見此

ひよ一箱と書くは中へん
ツシ
心の中い喉が乃由中へる魚皮
旅人の邦の人と云わわい
目か書てらんあひふ一巻と
侍人河務人の邦の人と申す
ツシ
かきい 実と云わわた清子か
ごうえいやはと我ーーとん

ツシ
本より位家も菴の屋乃一巻
枕と思召せーと云わわ
照しと云わも果奴の巻乃
六上
おぼ海月巻よーと云わわ
海生のとまハ時よあえは言
松乃こけりひーと云わわ
上高
初巻ハ浦の巻乃と云わわ

田鶴を侍魂路よなるとり雲外に
帰らざる其様人の故々も我と
きりんなる侍りや我おも奉え
とる如く涙よむをひらわく
望まざる人たばはに源原の
名義のちまゝに世をよひる人

羊詩

よもほし〜事とまむ有縁結て
侍せさる人安まるの事侍て
まのき申んあ〜つえを此は終

羊詩

物語

之唐之三月十八日の事なわ
〜東海に海の面一町りわみ
みなうり海源出をけけよ打出
折ふ大物軍のけり〜

所^ニハ^ニ一^ニ家^ニの本^ニも^ニ忠^ニ七^ニ冬^ニ浦^ニ
兼^ニ清^ニと^ニ必^ニ業^ニみ^ニを^ニの^ニや^ニ城^ニ目^ニの^ニき^ニ
兼^ニり^ニ一^ニみ^ニ一^ニ能^ニ見^ニを^ニ乃^ニや^ニを^ニき^ニ
時^ニよ^ニ太^ニ刀^ニし^ニち^ニお^ニけ^ニる^ニか^ニな^ニく^ニが^ニ
け^ニよ^ニ引^ニ一^ニの^ニき^ニり^ニ一^ニ景^ニ清^ニ
道^ニ勉^ニえ^ニを^ニの^ニや^ニ一^ニき^ニ一^ニは^ニ甲^ニ子^ニ
志^ニし^ニぬ^ニを^ニ信^ニの^ニ世^ニを^ニ一^ニほ^ニ一^ニ引^ニを^ニ

見^ニな^ニの^ニや^ニも^ニ一^ニか^ニを^ニ通^ニず^ニと^ニ前^ニ入^ニ
ひ^ニく^ニ一^ニま^ニよ^ニえ^ニり^ニや^ニと^ニ一^ニひ^ニか^ニふ^ニ
し^ニち^ニは^ニき^ニの^ニ板^ニも^ニわ^ニび^ニら^ニき^ニけ^ニる^ニ
た^ニお^ニへ^ニき^ニり^ニ決^ニと^ニり^ニの^ニき^ニよ^ニく^ニは^ニ
先^ニを^ニ清^ニ境^ニ一^ニる^ニあ^ニな^ニげ^ニる^ニを^ニ行^ニよ^ニ
お^ニ寄^ニ所^ニへ^ニん^ニ依^ニて^ニ決^ニ行^ニ總^ニ務^ニ殿^ニの^ニ
先^ニよ^ニか^ニく^ニ行^ニき^ニ馬^ニを^ニ一^ニも^ニふ^ニ

忘えぬ 或士の

ハ島より海や月弓乃づく本

才那〜〜〜又爰ふ了筈乃たハ迷

〜〜〜日まよひはあや生死の

海山を離やらすり海はハ將乃

〜〜〜やとふ〜〜執心

殘王の海乃あや衆世小尊物

〜〜〜忘ぬ物を取んぬの

〜〜〜久〜〜あは

〜〜〜の着路〜〜ひまき

〜〜〜乃あ〜〜あ〜〜あ

〜〜〜思ひろ出ふる者の或月もハ宵に

〜〜〜きえ〜〜皇幸乃決ハ爰が

〜〜〜源原はハ爰先をうろへ

〜〜〜

くん乃蒲の 玉氷のまを
けやぐ 濁浮はかゝる海生死の
海山一回は寒暑しる船より
とぶるあり 陸中は浪のうそ
月よ志ろす冬 浮るぶねひわ
上上 下下 浮小縁のハ 甲乃星の影
水やうくくもみ雲能波乃

づちあひさし 少海舟の
うげの光 浮志はす世さし 船小
表のよ乃波もわゆぐ 寺堂
みえ 一ハむまぬる 船と養の
ち浦堂やう 冬浦風なわくわ
高松の浦のまなわくわ 寺松乃
船あ 一とら ちわよき海



